

こっこめ通信 04 2019

「月日の流れは速かった」号



八丈島ではアカコッコのことを親しみを込めて「こっこめ」とよびます。

3月下旬になると公園内のオオシマザクラの中には葉桜になっている木もあります。季節はいつの間にか流れているんですね。足もとには小さな花々が広がり、見上げた木にも花が咲いている。新緑の香りいっぱいの深呼吸も気持ちがいいです。毎年、必ずやってくる春は心も体もリフレッシュしてくれるようです。フリージアまつりの会場もいいですが、緑の木々の下での散策はもっとオススメです。春の八丈島におじゃりやれ！

さて、今回は「見慣れないから難しい」「八丈小島の小池根生まれの28歳」についてのお話です。

見慣れないから難しい

2019年2月現在、八丈島で記録のある鳥は324種（ビジターセンター調べ）。その中でビジターセンターで確認できているのは279種でした。3月に入り、280種目として確認できたのが「イカルチドリ」です。

イカルチドリは1923年（大正12年）12月2日にオス1羽、1925年（大正14年）11月10日にオス1羽が三根地区で捕獲され、山階鳥類研究所に標本として保管されています。その後、記録されたという情報がないのでもしかしたら94年ぶりの確認なのかもしれません。（昭和・平成を合わせた94年間確認されず！）



今回確認されたのは3月17日に南原スポーツ公園にいた1羽だけです。2～3日は芝生の上を歩きながら幼虫を探して食べている姿が観察できましたが、その後は姿が見えなくなってしまいました。そして3月22日、同じ場所に21羽のコチドリが下りてきていました。写真を並べるとこの2種は似ていませんか？ 腹側が白く、背中側がグレー、クビにある黒いリング、額の白い斑、頭から目を通る黒いラインもあります（写真上の青矢印）。では違うところはどこでしょうか？ よく見るとイカルチドリのくちばしは長く、コチドリの眼の回りには黄色いリングがあります。さらにはイカルチドリの方が大きく、並んでいれば別の種だとはっきり分かるほどです。違いが分かればすぐに見分けが付くのですが、次に見られるのが何十年後では忘れてしまいますね。

姿が似ている生きものを見分ける時、見慣れている人には簡単に見分けられますが、初めて見た、滅多に見ることがない場合は「？」が浮かびます。並んでいてくれれば大きさの比較もできますが、別々に草地にポツンというとなおさら「？」です。バードウォッチングは遠くの鳥を双眼鏡で見ることが多いのでさらに多くの「？」ですね。

今回、イカルチドリの情報を教えてくれたのは、この3月で島を離島してしまう方でした。赴任中は何度も貴重な情報を教えて頂き、感謝しかありません。本当にありがとうございました。

「アカコッコ」は日本固有のヒタキ科（旧ツグミ科）の鳥で、国の天然記念物に指定されています。八丈島では一年を通して見られ、町の鳥にも選定されています。

八丈小島の小池根生まれの28歳

3月13日、八丈島の東側にある神湊漁港で右脚に銀色の足環が装着されているウミネコを発見しました。あまり逃げる様子がなかったのいろいろな方向から足環を撮影したところ、「KANKYOCHO TOKYO JAPAN 092-52235」と読み取ることができました(写真右下)。さっそく山階鳥類研究所へ問い合わせをすると、「1990年6月17日、八丈島八丈小島の小池根で長谷川博氏が装着、放鳥した35羽の雛のうちの1羽」であることが分かりました。山階鳥類研究所に確認したところ、八丈小島では過去に何度かウミネコへの足環装着が行われていたようです(右下表)。

神湊漁港にいた立派なオスのウミネコは28年8ヶ月前に小池根で生まれた個体でした。写真に写っている手前のメスと行動を共にしていたので、現在は八丈小島の宇津木で繁殖しているのかもしれませんが(小池根のコロニーは無くなっています)。山階鳥類研究所のサイトによるとウミネコの長寿記録は32年10ヶ月!あと4シーズン頑張れば長寿記録に並びます。この子は左脚の水掻きが無くなっているのも、遠くからでも識別できるので探しやすいです。同個体は3月21日にも神湊漁港にいるのを確認しています。

ウミネコは海が静かな時は沖に出ていることが多いですが、大時化になると漁港に避難してきます。大時化の時に漁港に行って足環のあるウミネコを探してみたいはいかがでしょうか?



2019.3.13 神湊漁港にて



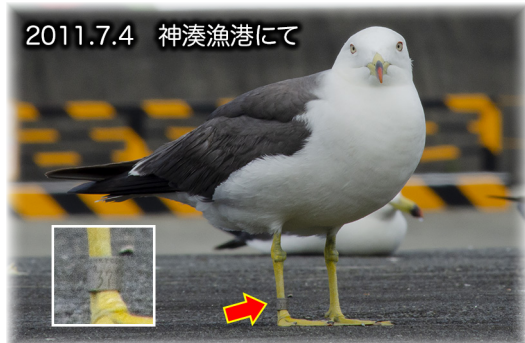
KANKYOCHO
TOKYO JAPAN
092 52235

八丈島八丈小島におけるウミネコ足環装着

装着日	装着数	装着場所	装着者
1985年6月20日	265羽	小池根	長谷川 博
1986年6月20日	219羽	小池根	長谷川 博
1987年6月13日	131羽	小池根	長谷川 博
1987年6月18日	107羽	小池根	長谷川 博
1990年6月17日	35羽	小池根	長谷川 博
1990年6月24日	43羽	小池根	加賀 実
1990年7月1日	66羽	小池根	加賀 実
1991年7月21日	12羽	小池根	加賀 実
1992年7月26日	35羽	小池根	加賀 実
1994年6月18日	60羽	小池根	加賀 実
2008年7月10日	2羽	小池根	仲村 昇
2008年7月11日	3羽	小池根	仲村 昇
2016年6月27日	3羽	宇津木	加賀 実
2017年7月4日	3羽	宇津木	加賀 実



2003.4.17 乙千代ヶ浜にて



2011.7.4 神湊漁港にて

上に書いたウミネコ以外にも過去に何度か足環のあるウミネコを撮影しています。

左の4月17日、7月4日は時期的に八丈小島で繁殖している個体かもしれません。

右の1月26日、12月8日は時期的に島に越冬しに来ている個体と思われます。

どの個体も足環が装着されているのは見えました、足環の刻印は、はっきりと確認できませんでした。



2013.1.26 八重根漁港にて



2015.12.8 八重根漁港にて

八丈植物公園季節調査会の報告

八丈ビジターセンターでは、毎月第二日曜日に、植物公園の生きもので季節を感じようという趣旨で、「八丈植物公園季節調査会」を開催しています。毎回見られる植物がどのように変化していくか、また、どんな鳥や植物が見られるかも観察しています。今回は3月10日に行いました。

八丈植物公園季節調査（2019年第3回）調査者：沖野、青木、沖山美、茂手木、VC 菊池

NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態	NO.	和名（島名）	状態
草本			33	トキワハゼ	花	シダ植物		
1	アオツツラフジ	昨年の実	34	ノジスミレ sp.	花	1	アラゲヒメワラビ	小苗
2	アオノクマタケラン	昨年の実	35	ノミノフスマ	花	2	イシカグマ	
3	アシタバ	実	36	ハキダメギク	花	3	ウチワゴケ	
4	アツバスミレ	花	37	ハチジョウテンナンショウ	咲き始め	4	オオイタチシダ	
5	イワニガナ	花	38	ハナイバナ	花	5	オオタニワタリ	
6	ウスベニニガナ	花	39	ハルジオン	花	6	オニヤブソデツ	
7	ウラシマソウ	花	40	ヒナギキョウ	蕾	7	カニクサ	栄養葉のみ
8	オオアレチノギク	花	41	ヒメオドリコソウ	花	8	シチトウハナワラビ	栄養葉のみ
9	オオジシバリ	花	42	フウトウカズラ	雄花のつぼみ	9	スギナ	
10	オオシマカンスゲ	実	43	ムラサキカタバミ	花	10	タチクラマゴケ	紅葉も見られる
11	オオバコ	蕾	木本			11	タチシノブ	
12	オランダミミナグサ	花	1	アオキ	熟した実	12	タマシダ	
13	カスマグサ	花	2	アカメガシワ	紅い新葉	13	ナチシケシダ	
14	カタバミ	花	3	イタビカズラ	実	14	ナンカイイタチシダ	
15	カラスノエンドウ	花	4	イヌビワ	実	15	ノキシノブ	
16	キュウリグサ	花	5	オオシマザクラ	咲き始め	16	ハチジョウカナワラビ	
17	キランソウ	花	6	オオバヤシャブシ	花	17	ハチジョウシダ	
18	ケキツネノボタン	花	7	オオムラサキシキブ	実が残る	18	ヒトツバ	
19	コケリンドウ	花	8	ガクアジサイ	実	19	ホシダ	
20	コナスビ	花	9	カジイチゴ	花	20	ホラシノブ	
21	コハコベ	花	10	キツタ	若い実	21	マツザカシダ	
22	シチトウスミレ	花	11	タイミンタチバナ	花	22	マツバラソ	
23	シマテンナンショウ	咲き終わり	12	タブノキ	蕾	23	マメヅタ	
24	シマボロギク	花	13	ハゼノキ	実が残る	24	ヤマイタチシダ	
25	シロバナマンテマ	花	14	ハチジョウキブシ	咲き始め	今回はシダ植物 24 種を含む 87 種の植物を観察しました。		
26	スズメノカタビラ	花	15	ヒサカキ	花			
27	スズメノヤリ	花	16	ヒメユズリハ	実が残る			
28	セイヨウタンポポ	花	17	マサキ	実			
29	タネツケバナ	花と実	18	モチノキ	花			
30	チチコグサモドキ	花	19	ヤツデ	実			
31	ツルソバ	花	20	ヤマモモ	花			
32	ツワブキ	実						

八丈島では、内地と少し様変わりした種や独自に進化した種など、聞き慣れない種があるのが特徴です。今回は、外洋に棲むウミウシ「アオミノウミウシ」にスポットを当ててみたいと思います。



アオミノウミウシ *Glaucus atlanticus*

アオミノウミウシ科のウミウシ。全世界の温帯・熱帯域に生息。腹部側を空に向け海面に浮き、カツオノエボシやギンガクラゲを食べています。背中側は銀色。八丈島では、南風が吹いた時、カツオノエボシやギンガクラゲが岸に漂着すると一緒に見られます。とても綺麗なウミウシでダイバーに人気があります。

2019 八丈ビジターセンター 4 プログラムカレンダー

日付の下に書かれている時刻は、八丈島（神湊）の潮の満ち引きの時刻です。左側が満潮時刻、右側が干潮時刻です。また日付の横は月の満ち欠けです。

日	月	火	水	木	金	土
この色の日 はガイドウォークや 特別行事があります	1	2	3	4	● 清明 5	6 ガイドウォーク
7 ガイドウォーク	8	9	10	11	12	13 ガイドウォーク
14 ガイドウォーク 「植物公園 季節調査会」	15	16	17	18	19	20 豪雨 ガイドウォーク
21 ガイドウォーク	22	23	24	25	26	27 ガイドウォーク 八丈学講座 「さえずりを聞き分けよう」
28	29 GW特別行事 「八丈富士ハイキング」	30	1	2	3	4
GW特別行事 午前：「バードウォッチング入門」 午後：「体験八丈太鼓」「特別ガイドウォーク」						

イベントプログラム

植物公園季節調査会

植物公園内で動植物の調査をしながら季節の変化を一緒に感じましょう！
4/14（13：30～ 約1時間半） ビジターセンター集合・解散
中学生以上 参加費：無料 定員：15名

八丈学講座 「さえずりを聞き分けよう」

毎月行っている八丈学講座。島ならではの鳥のさえずりを聞き分けられるようになる！
4/27（13：30～ 約1時間半） 和泉親水公園駐車場 集合・解散
中学生以上 参加費：50円 定員：15名 申し込み必要

GW特別行事 「八丈富士ハイキング」

毎年恒例の八丈富士ハイキング！天気が良ければお鉢巡りもします！
4/29（9：30～ 約6時間） 八丈富士鉢巻き道路登山口集合・解散 小雨決行
小学生以上（小学生は保護者同伴） 参加費：50円 定員：20名 申し込み必要

GW特別行事 「バードウォッチング入門」

双眼鏡の使い方から始める入門編。アカコッコやメジロなどを探しましょう。
4/28～5/6（10：00～ 約1時間半） ビジターセンター集合・解散
小学生以上（小学3年生以上保護者同伴・未就学同伴不可） 無料 定員：10名 申し込み必要

GW特別行事 「特別ガイドウォーク」

ゴールデンウィークは特別に午後の開催にしました！解説員が案内しながら園内を散策します。
4/28～5/6（14：00～ 約1時間） ビジターセンター集合・解散
だれでも 無料 定員：15名 申し込み必要

GW特別行事 「体験八丈太鼓」

両面から打つ島の太鼓を体験してみませんか？日頃のストレスを発散できますよ！
4/28～5/6（13：30～ 随時）
だれでも ビジターセンター入口にて 参加費：無料 雨天中止

ビデオプログラム

10：00～ 八丈・海・生きものたち
11：00～ おじゃりやれ 八丈島
14：00～ おじゃりやれ 八丈島
15：00～ おじゃりやれ 八丈島
16：00～ 八丈・海・生きものたち
上記以外での上映は予約にて可能です

東京都八丈ビジターセンター 2019.4.1 第215号

開館時間 9：00～16：45 年中無休（入場無料）
〒100-1401
東京都八丈島八丈町大賀郷2843
電話：04996-2-4811 Fax：04996-2-4888

編集後記

2001年6月号から作り続けて今号で215号になりました。私の担当は今号で最後になります。18年間お付き合い頂きありがとうございました。新年度からは新たな担当者が今まで以上の「こっこめ通信」を作ります。お楽しみに！（高須）